

【酒田駅周辺整備事業に係る事業者選定委員会】

第 2 回 議 事 録 概 要

○日 時 平成 28 年 4 月 18 日（月） 13 時 30 分～15 時 30 分

○会 場 酒田市役所 3 階 第二委員会室

○出席者 **選定委員** 委員長 倉田 直道（工学院大学名誉教授）
副委員長 高谷 時彦（東北公益文科大学大学院特任教授）
委員 佐藤 嘉高（山形県観光物産協会専務理事）
委員 高嶋 清彦（公認会計士）
委員 中川 崇（市企画振興部長）
委員 田中 愛久（市商工観光部長）
委員 大石 薫（市教育部長）
※委員 宮原 育子（宮城学院女子大学教授）は欠席

事務局 市企画振興部都市デザイン課 課長 阿部 武
課長補佐 高橋紀幸
主査 本間 宏樹
係長 土井 勝
主任 相馬 孝人
主任 高橋 秀幸
主事 今井 杏

1 開会

2 あいさつ（都市デザイン課長）

3 議事（以下のとおり。発言者敬称略）

委員長より過半数の出席により、委員会が成立していることが報告された。

(1) 経過報告について

事務局より資料に基づき説明。提案通り承認された。

(質疑概要)

委員

質疑応答の中で、特に審査に関わりそうな事項はあったか。

事務局

特別なものなかった。

(2) 市民ニーズ把握の手法と内容について

事務局より資料に基づき説明。提案内容についてアンケート内容を一部修正することで承認された。

(質疑概要)

委員

ここまでの市民ニーズ把握の取組みをするケースはそれほどない。市民が利用する施設であり、市民の関心も高く、市民意見を聞くことには意味があると考え。こういう機会を通じて市民に関心を持ってもらうという意義もあり、意欲的な取り組みだと思ふ。

委員

意欲的な取り組みだが、公開プレゼンテーション審査に1日かかると、市民は一日ずっと傍聴できるだろうか。パネル展示の内容だけでアンケートに回答できるか。

事務局

応募者が5者あるため、プレゼンテーションにはこれだけの時間がかかる。プレゼンテーションをすべて傍聴しなくてもアンケートに回答できるようにパネル展示を行うこととした。

委員

アンケートは5者すべてについて記入がないと無効になるのか。

事務局

無効とはしない。複数回答を可能とし、○の数を集計する。

委員

市民ニーズの把握はいい方法だと思うが、アンケートは○をつけてもらうだけになっているが、意見を記入できる方がいいのか考える。どちらがいいか。

委員

市民意見をどのように収集して、どのように審査に反映するかが選定委員として一

番気になるところだ。審査そのものについては選定委員会で行う。アンケートは選定委員が市民のニュアンスを把握するためのもので、市民の意見で順位が決まるものではないと理解している。定量的ではなく、定性的に市民の受け取り方を把握できるものであれば、必ずしも市民が5者すべてのプレゼンテーションを聞かなくてはいけないものではないと思う。

委員

委員の言うとおりでと思う。記入式にして市民の感想をきちんと書いてもらえれば、氏名や職業等はなくていいのではないかと。意見交換会の場合は司会がきちんといけば、単なる順位付けではない進行もできるのではないかと。アンケートだけが単に○の数の集計になってしまうのはどうか。

委員

アンケート結果がどの程度の拘束になるか気になっていた。アンケート結果は公表されるのか。

事務局

公表する予定。

委員

アンケート結果については、どの程度のボリュームでどのような内容が選定委員会に報告されるのか。

事務局

○の数の集計を報告するものと考えていた。

委員

アンケート結果は審査に対して強い縛りがないと認識しているが、できるだけ市民の生の声を聞かせていただければ、それを踏まえて専門的見地から審査したい。

委員

こういう形で市民意見を聞くことは、酒田のやり方としていいことだと思う。できる限り市民の意見を聞くべきだが、あくまで参考として感触をつかむものでもあるため、集計して数を出すことは好ましくはない。特に情報公開した時に○の数が意味を持ってしまうため、定性的なものであった方がよい。一方、記入式で意見を書いてもらうことが市民の負担になる場合もあるので、○をつけるだけの仕組みは市民にとって意思表示の機会になる。両者を組み合わせるのがよいのではないかと。今回のアンケート案も順位ではなく、複数○をつける仕組みなのでよいと思う。

委員

審査のフローにおける一次評価と二次評価の関係について教えてほしい。

事務局

提案書の内容によって各委員が仮に評価したものを一次評価と呼んでいる。委員同士の議論や公開プレゼンテーション等を踏まえて二次評価をしていただく。

委員

一次評価は直接結果には反映しないという理解でよいか。あくまでプレゼンテーションによって内容を把握したうえで、第5回選定委員会で決定するプロセスか。

事務局

その通り。

委員

公開プレゼンテーションに市民が参加する意図は何か。パネル展示とアンケートだけで意思表示ができるか。

事務局

アンケート自体はパネル展示の内容で回答できるようにするが、市民にもプレゼンテーションを聞く機会を設ける。聞いていただいた結果はアンケートにフィードバックされる。

委員

公開プレゼンテーションへの参加は、選定プロセスに対する市民の理解を深める機会となる。提案内容だけでなく、公平に審査がされていることやどういう視点で審査がされているかを市民の方々に見ていただく。昨今、事業者決定後に市民とトラブルになる機会が多くある。そうしたことを防ぐためにプレゼンテーションを公開することは意味がある行為だ。

委員

我々は市民に選ばれた委員ではない。審査自体が公平に行われていることを市民に見てもらうための公開プレゼンテーションという意味が大きいと理解している。

事務局

ご意見を踏まえて、アンケートに記入式のコメント欄は設けたい。氏名と勤務先の記入についてはどうしたらよいか。

委員

回答者に責任を持ってもらう上では一つの方法だと思う。

委員

行政でアンケートを行う場合の事例としてはどちらが多いか。

事務局

一般的には無記名が多い。市民参加の責任という意味では、記名にすることは多い。

委員

勤務先よりは住所の方がよいのでは。

委員

事業応募者の関係者による組織票を事務局が懸念している意図は理解しているが。

事務局

勤務先欄はなくしてもいいか、検討する。

委員

住所については、町名程度までにどのあたりの方が関心を持っているかを把握するようにしたらよいのではないか。

委員

組織票の抑制として「勤務先」欄はあってよいのでは。

委員

勤務先ではなく、「職業」でよいのでは。

委員

職業を選択肢から選ばせるかたちでよいのでは。

委員

主婦や学生の場合もある。アンケート回答者の属性を把握することは重要。

事務局

ご意見を踏まえて、事務局でアンケート用紙について検討する。

(3) 事業予定者選定までの流れについて

事務局より資料に基づき説明。提案通り承認された。

(質疑概要)

委員

採点と順位付けの考え方について事務局にアドバイスさせていただいた。採点は各委員の順位付けに使ってもらう。委員によって採点のスケールが異なるため、点数を合計するとおかしいことが起こる場合がある。それぞれの委員が付けた順位を大切に、順位をもとに全体で協議するのがよいと思う。

公開プレゼンテーション後、市民アンケートを踏まえて、二次評価を行う前に委員で議論を行った方がよいと思う。点数付けをした後に議論を行うと点数を変えづらい場合がある。市民アンケートをどう受け止めたかも踏まえて、専門的な見地から意見交換をする機会を設けるとよい。

委員

点数の単純集計よりもこのやり方がよいと思う。点数は各委員の中での相対評価。今回は各委員が選ぶ上位2案までが大事だということだと思う。

委員

各委員の上位2案に入らなくても、点数を集計すると上位2案に入ってくる平均的な案になる場合がある。意味があるのは点数ではなく、各委員の中での相対的な順位だと思う。

委員

順位を元に議論していく中で、最終の2案を決める前に意見交換を行うのはオーソドックスな手法か。

委員

最後の点数だけが出てくると、どういう評価をされて決まったかが見えてこないことがある。事務局サイドでプロセスをどのように公開していくかにも関わってくる。点数ではなく各委員の順位を元に討議していくことを公表してもよいのではないか。

委員

今のやり方でよいと思う。点数を明らかにしてほしいという声が出ることを想定したうえで、公表の仕方を事務局で検討してもらいたい。募集要項で配点が公表されているため、そういう声が出てくるだろう。

委員

評価シートの中で、「上位計画との整合」、「酒田らしさ」についてはどういう評価となるのか。「対話型市場調査への参加状況」についてはどのように審査するのか。

事務局

事務局で評価シートに記載するコメントを参考に審査していただくことで考えている。

委員

購入基準額に対する評価は、各委員が審査せずに決まるものとして理解してよいか。

事務局

応募者からの提案金額については、事務局で事業費を精査してきちんとチェックしたい。

委員

他の事例では事務局で精査した結果を参考に出してもらったことがある。対話型市場調査に対する貢献については情報を出してもらいたい。

評価シートについては細目に対してすべて点数を入れるという意味ではなく、評価の視点という理解でよいか。

事務局

よい。

対話型市場調査については、参加してもらった事業応募者にはその分の評価を与えたい。

委員

実際に一次評価をしてみて気付くこともあると思うので、次回の選定委員会で理解を共通にできるよう協議したい。一次評価については議論の材料として選定委員の中で共有してもよいのではないか。ある委員が特に高い評価を付けた項目があれば、なぜその部分を評価したのか説明してもらおうことも、審査するうえで意味がある。議論

をしばらく前提で、一次評価を出し合って、それを手掛かりに議論してもらえたらよい。

(4) 今後のスケジュール（案）について

酒田市より資料に基づき説明。

(5) その他

委員

委員の守秘義務はどのようになっているか。マスコミ対応や議会対応はどのようにしたらよいか。

事務局

審査が終わるまでは答えないことが基本になる。

委員

各委員ではなく、委員長が代表して答えるなどが必要となる。

委員

結果に係ることは審査が終わるまでは答えられない。公開プレゼンテーションの意義などは応えられるが。

委員

取り扱いを事務局で決めてほしい。

事務局

了解した。

6 閉会